

## 第360回 大阪大学臨床栄養研究会

日時： 平成27年9月14日（月）18：00～

場所： 大阪大学医学部 講義棟2階B講堂（吹田市山田丘2-2）

### テーマ：腸内細菌叢（プロバイオティクス）

#### に関する最近の知見

株式会社ヤクルト本社中央研究所

野本 康二 先生

ヒトの腸内菌叢は、総数では100兆個に及ぶ千種類もの細菌による極めて複雑な生態系であり、健常状態ではいわゆる”colonization resistance”と呼ばれる恒常性維持機構により安定に維持されている。近年の分子生物学的解析法の進展により、極めてdynamic rangeの広い腸内菌叢を精細に調べることが可能となり、年代、地域、民族性、栄養などの諸因子を考慮した腸内菌叢のデータベースの構築を目指した研究が展開されている。もちろん、さまざまな疾患における腸内菌叢の異常（dysbiosis）についてもデータが蓄積されつつある。

現在の最も一般的なプロバイオティクスの定義は、「適正な量を摂取することにより宿主に有用な作用を発揮する生きた微生物」である。感染症、自己免疫疾患、アレルギー、がん、などさまざまな疾患に対するプロバイオティクスの効果が期待されている背景として、プロバイオティクスの作用メカニズムの多様性が示唆されており、腸内フローラのバランス改善に加えて、免疫異常の正常化や過剰な炎症の制御といった作用がプロバイオティクス菌株特異的に示されている。さらには、プロバイオティクスの選択的な増殖・機能促進因子としてのプレバイオティクス（主に、オリゴ糖）の概念も一般化しており、プロバイオティクスとプレバイオティクスの併用（シンバイオティクス）の臨床研究成果も蓄積されている。

世話人：高度救命救急センター 小倉 裕司

E-mail: [ogura@hp-emerg.med.osaka-u.ac.jp](mailto:ogura@hp-emerg.med.osaka-u.ac.jp)

講演では、腸内細菌叢に関する最新情報をご紹介戴く予定です。

次回、第361回CNCは、看護実践開発科学 梅下 浩司先生のお世話で  
平成27年10月19日開催予定です。